

“高齢者”の英語表記について熟考する：elderly vs older adult

田中喜代次¹⁾，大久保善郎²⁾，笹井浩行³⁾

はじめに

学術誌への投稿論文を審査していて違和感を覚えることの一つに、「高齢者」の英語表記が挙げられる。英語圏では、高齢者を“older adults,” “older people”などと表記するのが一般的である。しかし、日本国内では、“elderly”（老人）という英語圏では排除されつつある表記を未だに使用していることが多い。実際、厚生労働省の老健局は“Health and Welfare Bureau for the Elderly”、その下部組織である老人保健課は“Division of the Health for the Elderly”と訳されている。また、同省がおこなう中高年者縦断調査は“Longitudinal Survey of Middle-aged and Elderly Persons”と公式に訳されている。日本高齢者ケアリング学研究会誌に直近3年間（7巻1号～9巻2号）で掲載された原著論文等21報を俯瞰すると、英語タイトルでolderを用いている記事が3報、elderlyを用いている記事が8報であり、明らかにelderlyが多く使われている。体育系の学会内での出来事であるが、ダンスや筋トレなどの運動教室に参加するような元気な中高年齢女性を英語に訳すならば、middle-aged and older womenとなるのに、middle-aged and elderly womenなどと実態にそぐわない表記をしているにもかかわらず、2度 native check を受けたから正しいと言い張った例もある。ここでは、高齢者を英語で

表記する際に elderly や old ではなく、older という表現の使用が適切であることを説明したい。

高齢者の英語の呼称と ageism (エイジズム)

人を old と表現すれば、古い人間という印象を与え、ageism（年齢差別、エイジズム）につながりかねない。Old という表現は、「歳をとっている」ことを強調する言葉だからである。いかなる辞書でも、old を young の反対語としているが、英語における old には、古いもの、さびれたもの、汚いものなどのネガティブな印象がある。そのため、old はエイジズムになってしまいかねないので気をつけたい。

Elderly という表現は、おそらく日本語でいう老人に最も近く、old に比べれば多少は丁寧な表現であろう。しかし、elderly には「老人」とともに、「弱い」、「虚弱」、「病弱」といった意味が含まれる。昔、老人と言えば虚弱で、猫背で杖をついているというステレオタイプが受け入れられていた時代もあっただろう。しかし、現代社会においては、65歳以上であっても健康的で高体力の人が増えており、80歳で筋トレに励み、マラソンを完走する人もいる。つまり、高齢者がみんな虚弱であるわけではないので、65歳以上の人をひとまとめに老人と呼ぶことが不適切にな

¹⁾ 筑波大学名誉教授，教育学博士

²⁾ Neuroscience Research Australia, 研究員

³⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所，主任研究員

ってきた。そのため今日の日本では、老人という用語に高齢者自身が差別的な印象を持ちうるという理由から、公式の文書では使用することが少なくなってきた。それと同様に、英語においても *elderly* という表記は論文中で未だに散見されるものの、非常に少なくなっている (Avers et al. 2011)。Elderly という表記がなくなる理由として、日本人のように英語を外国語として用いる人がその意味をよく分からないまま、辞書や過去の論文を見習って使用していることもあるし、そういう配慮に欠けた報道機関などの存在が挙げられよう。日本でもあてはまることだが、英語圏の高齢者が自分のことを *elderly* と言ったとしても、他人から *elderly* とされると傷つくことがある。(なお、これと全く反対の意見もある)

エイジズムに該当しない高齢者の呼称

では、エイジズムに該当しない高齢者の呼称は何か。それは、*older adult(s)* や *older people*, *older persons*, *older individuals*, *older men*, *older women* である。Older は比較級 (-er) が入っているだけだが、これは相対的な言葉であり、自分が 20 歳で相手が 25 歳ならその相手は *older* であるというように、誰にとっても誰かよりは年齢が少し高いという意味で、ネガティブな印象を与えにくい。つまり、*older adults* という用語自体には、本来、高齢という意味を指しているのではなく、単に年上の人となるので、柔らかい印象を与える。もちろん、世界保健機関は伝統的に 65 歳以上の人を *older adults* と定義してきており (World Health Organization 1984)、英語圏で *older adults* という語の意味は一定の年齢を超えた人、現時点では主に 65 歳以上の人のごとで、いわゆる高齢者を示す用語である。

Senior people のような *senior* という用語も差別的な印象を含まない呼称である。この *senior* にも本来高齢者という意味はなく、先輩や年上の人を示す用語である。ただ、*senior* にも若干ステレオタイプの印象を与える可能性があり、日常よりカジュアルに使われることも多いことから、学術論文や公的な

文書において人々を年齢で一括りにするときには *older adults* という表記が最も好まれると言われている (Dahmen and Cozma 2009)。

日本老年学会・日本老年医学会の高齢者に関する定義検討ワーキンググループからの提言 (2017) によると、65～74 歳を准高齢者、准高齢期 (*pre-old*)、75～89 歳を高齢者、高齢期 (*old*)、90 歳以上を超高齢者、超高齢期 (*oldest old*, *super-old*) としてはどうか、との提言が出されている。そもそも老年学会という呼称の見直しを先に検討してはどうかと思うとともに、生物学的区分けとしての *oldest old* なるカテゴリ表現は適当だとしても、90 歳になった人に向けて *super-old* という呼称はエイジズムの最たる例になりかねないと考える。テニスやゴルフの技術が素晴らしい場合、*super athlete* とか *super player* と称するのは良いとしても、*super-old* は「極度の虚弱状態」をイメージさせることになりかねず、筆者らは賛同できない。次節で述べる *people first* な表現を用いてほしい。ちなみに、PubMed でこれらの用語がタイトルまたは抄録に含まれる論文を検索したところ、*oldest-old* は 2 千件を上回ったが、*super-old* は 3 件しかヒットしなかった。そのうち 2 件は日本からの論文であった。

People first な表現

学術論文ではできるだけ人を代名詞で表現するとき *people/person first* な用語を使うべきという考えが主流で、その取り組みが広がりつつある (Obesity Action Coalition, 2019)。People first の反対は *identity first* または *condition first* であり、*diabetic men*, *obese people*, *the disabled* などが当てはまる。People first な表現としては、*people/patients/individuals with diabetes/obesity/disability* などが推奨される。その背景には、疾病や障がい等があるという表記をする以前に、一人の人間であるということをも前提とした捉え方が背景にある。

この考えに基づくと、*older adults* も *identity first* な表記に該当する。そのため、可能ならば *adults aged 65 years or older* のように年齢を具体的に表記することが推奨される。ただ

し、前述のとおり older はネガティブな印象を持たれにくいため、英語圏での学術論文では older adults が頻用されている。実際、高齢者医学分野の主要な国際誌である Journal of the American Geriatrics Society 誌の最新号 (67 巻 10 号) の原著論文および短報 20 報を俯瞰すると、タイトルで older を用いている記事は 10 報あるが、elderly を用いている記事は 1 報もない。

また、people first な考え方とも言えるが、むしろ people centered な考え方と捉えられる例として、研究対象者の表記が挙げられる。主に実験系で頻用される subjects (被検者、被験者：検査・実験をやらされた人との解釈が可能) は研究者視点からの独断的な表記であり、研究に参加した人という本来の意味の participants (参加者、研究対象者) がより適切な表記である。

結 語

高齢者を一括りに elderly (老人) と表現することは、本人が受ける印象を考慮せずにラベリングし、固定観念を助長してしまいかねない。日本の高齢者 (老年学) 研究の水準は、国際的に非常に高いにも関わらず、国際的な日本の発言力が低く、日本の論文が著名な国際学術誌に掲載されづらい、などと感じることがある。我々日本人が世界での発言力をさらに高めていくためには、世界に向けて素晴らしい研究成果を紙面で発信する際に、英語圏における繊細なニュアンスを考慮し、エイジズムを避けて people first な表記を用いることが必要と思われる。

参考文献

厚生労働統計調査名英訳名称一覧
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/eiyaku.html>
 Avers D et al. Use of the term “Elderly.” J Geriatr Phys Ther 34: 153-154, 2011.
 Dahmen N, Cozma R. Media takes on aging. 2009.
 Obesity Action Coalition. People-First Language. 2019.
<https://www.obesityaction.org/action-through->

advocacy/weight-bias/people-first-language/ World Health Organization. Definition of an older or elderly person. Volume 2014.

長ヶ原誠ら. ジェロントロジースポーツ. ジェロントロジースポーツ研究所, 日本工業新聞社, 2007.

内閣府. 平成 26 年度高齢者の日常生活に関する意識調査.

<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h26/sougou/zentai/index.html>

日本老年学会・日本老年医学会. 高齢者に関する定義検討ワーキンググループからの提言. 2017.

「レクチャー」を企画した経緯

編集委員 田中

高齢者のことを elderly と表現するケースが多いですが、私は older people のように、多くの場合、older を使用するのが良いと思います。個人の好みではなく、根拠があっての見解です。

柳理事長

私も最近では elderly よりも older men のように、older がよく使われると思います。

編集委員 巻

elderly people と older people のように、両方が使われていますが、執筆者の好みで選択するのは良くないのでしょうか？

柳理事長

どちらを使っても良いのか、それとも何らかの根拠に基づいて使い分けるのが良いのか、田中先生なり、誰かに解説していただくことを編集委員会で検討されては？

編集委員 田中

日本では両者を受け入れていますが、欧米では older が優先的に使用されます。特別なケースで elderly の使用もありと思いますが、通常は older adult が推奨されます。私でよろしければ、解説風に寄稿いたします。

編集委員 高尾

厚労省や日本老年医学会なども elderly を

使っていますが、また十分吟味された経緯があるようにも思いますが、その点はいかがでしょうか？

編集委員 田中

吟味されたはずでしょうが、言語学的視点から、また時代的背景まで熟慮されたかどうかは疑問でしょう。そもそも介護予防を *prevention of long-term care* などと表現している点は、吟味が乏しいことを物語っていると思います。より適切な言い方は *prevention of long-term frailty* でしょう。前者は「ケアしない」、「世話の放棄」との意味になりかねません。よって、日本語も本来は要介護化阻止（防止）などとすべきでしょう。【高齢者ケアリング学研究9巻2号、2019年に解説済み】ちなみに、*prevention* 以外に、*delaying* や *extending time to* などの表記についても検討するのがよいと思

ます。

編集委員 巻

それでは *elderly person* と *older person* などの区別について、高齢者ケアリング学研究に「レクチャー」または「解説」のカテゴリで寄稿していただけますか？

編集委員 高尾

巻先生のご意見に賛同します。編集委員会でも協議したいと思います。

編集委員 田中

承知しました。Journal of Aging and Physical Activity (Human Kinetics, USA) の副編集委員長、日本体力医学会の編集委員長、日本介護予防・健康づくり学会の学術委員長などを長年務めていた中で、こういったことについて何度も議論してきましたので、読者にわかるよう、できるだけ平易に解説したいと思います。